

マイナビ、「非正規雇用に関する求職者・新規就業者の活動状況調査(9-10月)」を発表**21年9-10月にアルバイトを探した割合は14.3%。前年と比べ希望職種が変化。
業務のデジタル化・DX化で求人数が最も減ると回答したのは4割超え**

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：中川信行）は、全国の15～69歳の男女（中学生を除く）（有効回答数：スクリーニング調査15,963名、本調査1,522名）を対象に実施した「非正規雇用に関する求職者・新規就業者の活動状況調査(9-10月)」の結果を発表しました。

※非正規雇用：アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託

《TOPICS》

- ◆ 21年9-10月にアルバイトを探した割合は14.3%で微増。前年と比べ希望職種が変化【図1、2】
- ◆ 業務のデジタル化・DX化で求人数が減ると回答したのは4割超、最も減ると思われている雇用形態は正社員【図3、4】
- ◆ 仕事探しの希望条件にこだわりを持っている人は9割以上【図5】

【調査概要】

21年9-10月にアルバイトを探した人は14.3%（21年7-8月比：+0.8pt、20年9-10月比：+1.8pt）となった。最も探されたアルバイトの職種は、[オフィスワーク(31.9%)]、次いで[販売・接客・サービス(31.4%)]、[軽作業(21.6%)]となった。前年同時期と比較すると、8職種中6職種が減少しており、特に[軽作業] 8.6pt減、[イベント・キャンペーン] 7.6pt減、[飲食・フード] 6.6pt減となり大きく減少した。複数人が建物内で行う[軽作業]や、不特定多数の人と対面での接客が多い[イベント・キャンペーン][飲食・フード]が減少していることから、新型コロナウイルスの影響で、感染リスクを考慮した職種探しをしていると考えられる。【図1、2】

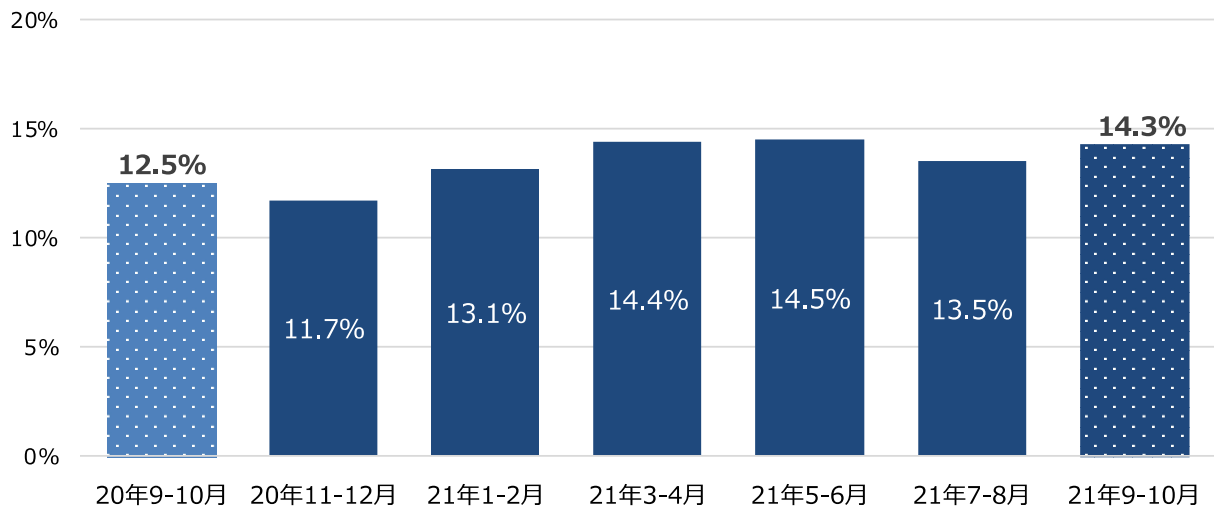
業務のデジタル化やDX化などが、求人数にどのように変化をもたらすと思うか聞いたところ、全体では「増えると思う」が19.1%、「減ると思う」が44.2%で、減ると思う割合が高くなった。雇用形態別で見ると、「増えると思う」は「フリーランスの求人数」が30.3%で最も多く、「減ると思う」は「正規雇用（正社員）の求人数」が45.3%で最も多かった。【図3】

全体の求人数が減ると思う理由の自由回答では、「同じ作業をコツコツする仕事は求人が減りそう」などが挙げられた。増減理由をそれぞれ見比べると、高度な仕事が増え、単純・反復的な仕事は減る、というようなコメントが頻出した。【図4】

仕事探しにおける希望条件のこだわりと、妥協の程度について聞いたところ、「希望条件全般にこだわりがある」は92.4%、「妥協した」は71.3%となり、ほとんどが希望条件にこだわりを持っているが、7割以上は希望条件を妥協していることが分かった。

希望条件別にみると、こだわりがある条件は「通いやすい勤務地」89.4%、次いで「時短や週5日未満、シフトに融通がきくなど、働く時間が柔軟」81.9%、「給与（時給額）が高い」80.9%となった。特に勤務地やシフトについては、妥協していない人が多く、非正規雇用の仕事探しにおいて、譲れない希望条件であると考えられる。【図5】

【図1】 21年9-10月にアルバイトの仕事を探した人の割合 (n=15,963)



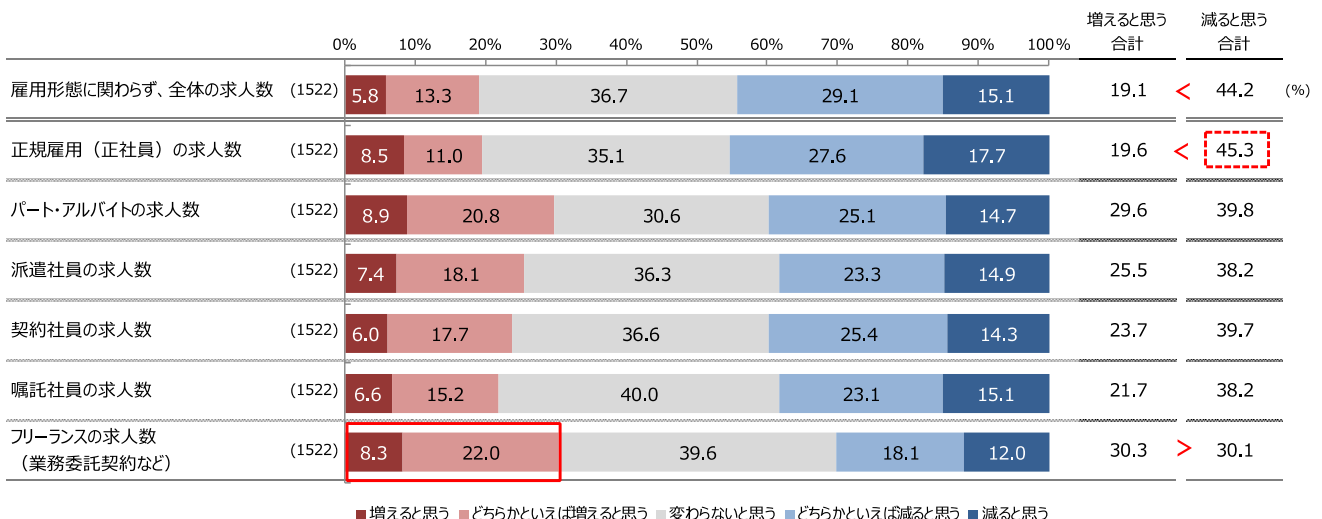
※回答数は最新の調査のものを記載

※今回より、過去調査を含め国勢調査を元に10代~60代の人口構成比で再集計を行っています

【図2】 アルバイトの仕事で探した上位10職種の推移 (n=1,257)

職種	21年9-10月	21年7-8月比	20年9-10月比
オフィスワーク	31.9%	+1.2pt	±0.0pt
販売・接客・サービス	31.4%	-1.7pt	-0.4pt
軽作業	21.6%	-2.3pt	-8.6pt
飲食・フード	19.5%	-0.3pt	-6.6pt
工場・倉庫・建築・土木	14.2%	-0.4pt	+1.6pt
警備・清掃・ビル管理	9.5%	+0.5pt	-3.6pt
医療・介護・福祉	8.2%	+0.1pt	-2.5pt
イベント・キャンペーン	8.1%	+0.1pt	-7.6pt
教育	6.3%	-0.1pt	-2.6pt
配送・引越し・ドライバー	6.2%	+1.1pt	-3.6pt

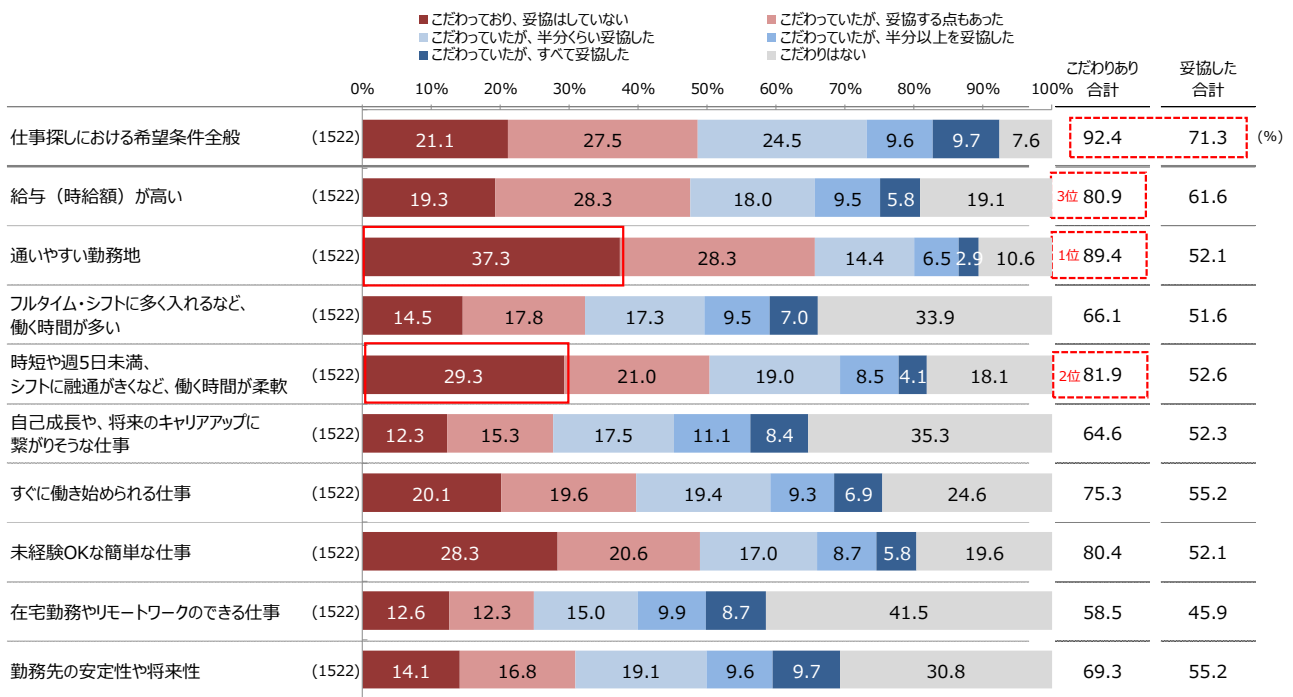
【図3】 業務のデジタル化・自動化が進むことによる求人数への影響 (単一回答)



【図 4】業務のデジタル化・自動化が進むことによる、全体の求人数への影響-その理由
(自由回答)

増えると思う理由		減ると思う理由	
減る分野もあると思うが、非正規雇用がアナログでしか対応出来ない部分を担うので、結局は増えると思う	男性50代	人より機械の方がコストが抑えられるから雇用する必要性が下がる	男性30代
デジタル化で、求人がしやすくなり、求人検索もしやすくなるだろうから	女性20代	DX化などで業務の省力化がすすむので	男性50代
在宅勤務が増え、会社に雇ってもらうのではなく、クラウドファンディングを利用した仕事なども増えてくると思うから	女性50代	人口減少も考えると求人しても人が集まらないと思うから	女性50代
企業としては、賃金が低い人たを多く雇い入れたいから	男性50代	やはり機械に置き換え出来る職種は置き換えられてしまうだろう	男性60代
第一、第二次産業を中心とした、デジタル化のできない業種の人手不足が深刻化しているから	男性10代	介護や掃除などの仕事は変わらないと思うが、接客業はインターネットの普及やセルフレジにより減る	女性30代
デジタル化に際して、機械のエンジニアやそれに関わる求人が新たに必要となるため	男性10代	同じ作業をコソコソする仕事は求人が減りそうだったため	女性30代

【図 5】希望条件のこだわり有無とこだわりの妥協程度 (単一回答)



※選択肢補足：「こだわっていたが、妥協する点もあった」は妥協が1~4割、「こだわっていたが、半分くらい妥協した」は妥協が6~9割としている

【調査概要】「非正規雇用に関する求職者・新規就業者の活動状況調査(9-10月)」

- 調査期間/2021年11月1日(月)~11月4日(木)
- 調査方法/インターネット調査
- 調査対象/スクリーニング調査：全国の15~69歳の男女(中学生を除く)
- 本調査：全国の15~69歳の男女(中学生を除く)のうち、9-10月に非正規雇用の仕事探しをした、もしくは新たに非正規雇用の仕事をはじめた人
- 有効回答数/スクリーニング調査：15,963名 本調査：1,522名

※調査結果の詳細は会社HPのニュースリリース (<https://www.mynavi.jp/news/>) からご確認ください